

第4次佐世保市食育推進計画(案)諮問からの変更点

令和4年1月27日	当日配布資料1
令和3年度 第2回食育推進会議	

計画書(案)に対する事務局からの修正箇所一覧

番号	委員名	ページ	計画書(案)の修正箇所について
1	事務局側より修正	41	食育推進実施プラン、実施事業の一覧の実施事業内容と指標式名に誤りがあったため、次のとおり修正します。 17.(中事業)1歳6カ月児健診、(事業項目)2歳児経過歯科健診の(事業内容)2歳になるフォロー児に対する歯科保健指導。(指標式名)経過歯科健診受診率(所内及び歯科医院含む) ↓ (事業内容)2歳になるフォロー児に対する<u>アンケート状況調査と歯科健診</u>。(指標式名)<u>アンケート回収率</u>。 ※他の計画と併せて変更するもの。

計画書(案)に対する食育推進会議委員からの修正案等一覧表(令和3年度 第1回食育推進会議当日意見を受けて)

番号	委員名	ページ	質問内容	事務局回答
2	江頭委員	28	壮年期・青年期の部分で、「きらっと元気教室」の取り組み内容の記載がありますが、口腔機能の向上・栄養改善の健康教育も行うというところで、特に今は、高齢者の「サルコペニア」が非常に問題になっています。 「きらっと元気教室」の中で、「サルコペニア」の予防に対する指導を、栄養指導というところまでつなげていただきたいという風に思います。	それぞれの事業をご紹介している中では、その事業でやっている詳細な部分までなかなか書き込めない部分も実はございます。ですので、事業を進めていく中で年度によって、事業内容の組み立て直しや、いろいろなところに修正を入れながら実施していく部分ではあるので、一つ一つ詳細に内容を盛り込むのがなかなか難しい部分です。 ご提案いただいた内容については、何かしらの項目として、この事業の中の、事業内容としていれるのか、他の所で触れるのかを含めて、文言の修正を検討させていただければと思います。 ↓ ・P24第3章 施策の展開 3-1基本的施策 1. 家庭でのライフステージにおける食育の推進の項目に文章を追加。 ライフステージの変化に応じて、食事や生活習慣の見直しが必要になります。特に、働き盛りの壮年期には、メタボリックシンドローム対策に重点を置いた生活習慣から、高齢期では「サルコペニア」や「フレイル」の予防を重視した生活習慣へ転換するための食育を推進することが重要です。

計画書(案)に対する食育推進会議委員からの修正案等一覧表(令和3年度 第1回食育推進会議当日意見を受けて)

番号	委員名	ページ	質問内容	事務局回答
3	川崎委員	21、22	基本目標として挙げる際、第3次の方では各項目、何々を「減少させる」とか「増加させる」といった表現をされていたものが、「何々について」とか、「何々の割合」というような表記に変わっており、目標と言われた際、第3次のもとの比べると、何となく表現が弱いかなという風に感じましたが、その辺りあえてこのような表記に変更されたんでしょうか。	第3次計画では、目標の記載の仕方が統一性がないというのを、第4次の案を作るにあたり、統一性を図るため議論し、何々についてという表記に整理しました。 基本目標については、増やすのか減らすのかを見てわかるよう、方向性が見えるような記載に変更するよう検討します。 基本目標の表記修正(修正前) 1. 食育の認知度について 2. 朝食の欠食について 3. 栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民について 4. 生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民について 5. 嚙ミング30の推進について 6. 家族そろっての食事の機会向上について 7. 学校給食について 8. 食育の推進にかかわるボランティアについて 9. 地産地消の推進について 10. 食文化の継承について 11. 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民について 12. 食品の安全性に関する基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民について ※7.については推進項目も一部修正(修正前) 地場産物を使用する割合(重量比) ↓ 基本目標の表記修正(修正後) 1. 食育の認知度を<u>向上させる</u> 2. 朝食を欠食する市民を<u>減らす</u> 3. 栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす 4. 生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす 5. 嚙ミング30の推進について(ゆっくりよく嚙んで食べる市民を増やす) 6. 家族そろっての食事の機会を増やす 7. 学校における食育の取り組みなどを増やす(充実させる) 8. 食育の推進にかかわるボランティアの数を増やす 9. 地産地消の推進について(地場産物を認知している市民を増やす) 10. 食文化(伝統的な料理や作法など)を継承し、伝えている市民を増やす 11. 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす 12. 食品の安全性に関する基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民を増やす ※7.については推進項目も一部修正(修正後) 学校給食に地場産物(佐世保産)を使用する割合(重量比)